

さみしい夜の句会報 第75号 (2022. 7. 24-2022. 7. 31)

- ◆ 参加者たなかゆみ、古藪梨衣子、小悠庵、太代祐一、蔭一郎、しまねくん、風池陽一、岩瀬百、susie、涼閑、以太、玖、宮坂愛哲、西脇祥貴、天やん、まつりへきん、相見美緒、ゆりのはな、rajini、石原とつき、海馬、藤井卓、紺野水辺、丸山タロ、石川聡、汐田大輝、あ、白水ま衣、伽羅、電車侍、東ころろ、星野響、雲上晴也、ちゅんすけ、日月星香、桔梗薫、雷 (G.)、crazy lover、kabotahiroko、輪井ゆう、石原とつき、Ryu sen、Tonaroo、水の眠り、菊池祥勝、キラワレモノ、pe、みや／水也、鴨川ねぎ、式定住佳、達毘古、西沢葉火、小沢史、おたま、和泉明月子、夏野ネコ、月硝子、日下呉、高田月光、生・存、夜槍詩人、木野清瀬、hyattoppa、SINNY、馬勝、岡村昭、むくみんママ、卯月俊、くるい咲き、たろりずむ、鷺沼くぬぎ、烏りす、俳句愛、大本伸彰、F・骨、檜崎進弘、森内詩紋、catch you、eritica、HAKUBIKI、月波与生 (八〇名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

- くちづけをまだ拒まれぬ花氷 木野清瀬  
生きている方の私が煮る魚 白水ま衣  
クリオネを歯間ブラシで押し出して たろりずむ  
息をするだけしか書いてないバイト 蔭一郎  
塩辛のくせに涅槃へ行きたがる 岡村知昭  
氷屋のさっそく熱くなる鏡 岡村知昭  
バジルバジルバジルとむしっても母 太代祐一  
アボカドに歌の巧さは求めない 太代祐一  
歯並びが恋の手本となりにけり 西脇祥貴  
帰省しても帰省しても兄がいる 蔭一郎  
浴衣着た女の子たちみなグワシ 蔭一郎

年齢不詳の廢疾菊挿しぬ 菊池洋勝

檄文の@の草書体 Ryu\_sen

乾電池切れて鎖骨があまくなる 小沢史

初浴衣の柄に退屈を溶かす 生・存

対面をすれば無言のメロンかな しまねこくん

帰省ほどよく散らかった広い居間 高田 月光

本心は余れば冷凍するが良し 白水ま衣

☺を開いてうつくしい余韻 東こころ

舶来の薄荷煙草にして夜勤 西沢葉火

部屋の角反対側に帰省する しまねこくん

旧友と稲川淳二で涼む夜 Longroof

信仰を始める「かしこ」と添えてから Ryu\_sen

絡繰りが見えないときは目を閉じる Kubotahiroko

傘立てはみんなの七月のお墓 蔭一郎

蝉の殻なかへ入れば乱気流 石川聡

サマーセールで述語になった 白水ま衣

足跡を入道雲で拭い取る まつりぺきん

膝カックンして欲しいのだ君だけに najimi

大仏と花摘む大仏の違い 西脇祥貴

粉々のうなぎパイ完膚なき負け 岩瀬 百

桃色に塗れば新種の蝉の殻 しまねこくん

過ちが無くてもメロンは切られる身 しまねこくん

ミネラルウォーターに足洗うおんな 太代祐一

夏菜菓のピアスを買いに森の道 紺野水辺

コンプライアンスの白兎、だね！ 海馬

ハチミツを舐めにいくねと闇の奥 海馬

新郎新婦は夏風邪より水 石原とつき

昼寝覚出逢えたはずの知らぬ顔 玖

月下美人三十八万キロメートル 玖

デウス・エクス・マキナ豆腐の亀裂音 以太

把手が付いてる方がフィクションです 白水ま衣

糸電話すべてやさしい嘘だった　ちゆんすけ

今日もまた吸っては吐いて吸って吐く　古都梨衣子  
若者のキラキラ笑顔が可愛くて♪　休庵

夕立に騒ぎだす子や通学路　風池陽一

ねえねえと並んで座り氷水　SYUSYU

座敷牢転生すればアメーバー　涼閑

氷水下品なほどに美しく　宮坂麥哲

致死量の愛を貪る短夜かな　天やん

泣き言を言う相手なく虫が鳴く　ゆりのはなこ

子宮は収縮する紫蘇のよき香り　藤井皐

先鋭化する夏菜黄は錆び朽ちる　あ

守秘義務の時には苦し時鳥　伽羅

空蟬や　月光白き　森の中　電車侍

ゆらゆらと布袋葵の黙秘権　星野響

浮世絵の夕立に似て真っ直ぐの　雲上晴也

トランクに夏服詰めてお泊まり日　日月星香

揃った口でご飯お菓子と夏休み　黎明

Amazon 装った事だけは分かる文字化け　雷

待受の貴方の目を逸らしLINE　輪井ゆう

旧友と稲川淳二で涼む夜　Longroof

あれこれとジャッジジャッジの蟬の殻　水の眠り

兵や鎧虚しき蟬の殻　宮坂麥哲

今日髪染めてきた　キラワレモノ

それでも待ちわびるフジロック　TUTU

米一粒宿りし太古のアニミズム　鴨川ねぎ

会いたいが会ってみたいが意気地なし　式定住佳

遺伝子のバトン渡して悲が主人　達毘古

お中元うちの前にはとまらねえ　おたま

わたしにも等しく降りて蟬時雨　和泉明月子

好きだから割り勘にする夏雲雀　夏野ネコ

夏雲雀残らぬ側の悲歌永く 月硝子  
夜が更ける程に慎ましい合歡の樹よ 日下晁  
影なのに早く木陰に行けと言う 達毘古  
生物部の育てし謎の夏の水 hyuntoppa  
いつの日か、笑って囲もう、BQ くゑい咲き  
お月様いつまでも夜をください 卯月俊  
蛸や夕風に溶くメランコリー 鷺沼くぬぎ  
踊り場に痴漢の指が落ちている 月波与生  
蛇穴のひとつは母の手の匂い 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

「生きてよ」が重荷になった藍色の時代を灯す電球ソーダ  
相見美緒

母親とキャベツについて話する 雲が速くて、ひとりぼ  
つちで 丸山タロ

青信号進め赤信号止まれ黄信号でとまどうペリカン 汐田  
大輝

やさしげな音を聞かせてこの夜はあなたの香り添わせて眠  
る みや

磨くのは艶を出したいだけなのに粗い鑢に磨り減るばかり  
夜想詩人

あの世とこの世の間の崖つぶちを歩いています。むくみん  
ママ

「おきざりって、メトロノームのこと？」とこゝろてんとも  
言うね 石原とつき

この前のふたりで行った青い星なんか汚いから消しといた  
蔭一郎

◆ 詩

止まない雨はない  
というけれど  
だって  
悲しい  
やっぱり雨は止まない  
(たなかゆみ)

no mask no war

とびつきやすい

いいこと言っても根拠なし

無くならないのは誹謗中傷

いいさ、好きにすれば

正しいのか間違えなのか後になってからわかる

自らが思うよう

生きればいい

咎められない

あの世界からこの世界へ

この世界からあの世界へ

よーこそ (crazy lover)

さみしいときは、無理しないで

そのまま受け止めていればいいよ

さみしい自分だって、大切にしてあげよう (SUNNY)

◆ 作品評から

浴衣着た女の子たちみなグワシ 蔭一郎

〜さみしくない(罵りす)

粉々のうなぎパイ完膚なき負け 岩瀬 百

うなぎパイに反応してしまった。異動の季節にはうなぎパイが飛び交う。異動という糖衣にくるまれた社会的な

敗北の味と完膚なきまでに砕かれてうなぎエキスと化した  
鰻の運命との二重露光。(以太)

月下美人三十八万キロメートル 玖

〜難解です。数字としては、日本の面積ふうなんですが。

(俳句愛 大本伸彰)

おきざりって、メトロノームのこと?」ところてんとも言  
うね 石原とつき

〜言わないって(二応突っ込んで) 守・骨)

ハチミツを舐めにいくねと闇の奥 海馬

〜地獄の黙示録。(檜崎進弘)

この前のふたりで行った青い星なんか汚いから消しといた  
蔭一郎

〜壮大な不穩。カッコイイ(森内詩紋)

夏菜黄のピアスを買いに森の道 紺野水辺

〜夏菜黄?初めて聞いた単語です。(catch you)

茉莉花や校則変はりゆく女子校 SYUSYU

〜茉莉花IIマツリカIIジャスミン。ジャスミン姫はディ  
ズニー映画のプリンセス像を大きく変えた。「校則変はりゆ  
く」が現代的だ。(月波与生)

糸電話すべてやさしい嘘だった ちゆんすけ

〜糸電話は声が違ったように聴こえる。嘘はほんとうの  
こととは違ったように聴こえる。そういえば、ほんとうの  
ことではないのはやさしさである。ほんとうのことはいつ  
も陰しい。(以太)

踊り場に痴漢の指が落ちている 月波与生

〜映画「バーフバリ」を思う。踊り場という舞台設定も舞踊の多いインド映画に合う。もちろん痴漢の指を切り落とすのは間違いであり、切り落とすべきは首だ。(以太)

通訳に省かれた If possible, たろりずむ

〜意図的に省かれた「可能ならば…」。多分相手の言葉のいくつかも省かれているのだろう。お互いそのことを知りながら会話は続く。(月波与生)

絡繰りが見えないときは目を閉じる Kubotahiroko

〜深い♡(´ ˘ ˘) (eririca)

雨かしらと臍が呟いたやうな 藤井卓

ああこれが月の茸かいう貌で 藤井卓

〜句とも「奇妙な味」がする句。未だ「臍の呟き」は聞かないし「月の茸」も知らないが、そういうことが起きるだろうと思う。日常は怖い。(月波与生)

出梅の太陽高し自流かな 菊池洋勝

〜自流の句は〈法医学・桜・暗黒・父・自流 寺山修司〉があるが寺山の句は同質の言葉をコラージュして想像力を肥大させるが、掲句はもっとあつけらんとしているのが今時だ。(月波与生)

蛇穴のひとつは母の手の匂い 月波与生

〜一読、母がまだ眠っている蛇を引っ張り出したと読んだがそうじゃなかった。母の手自体が蛇なのだ。仲秋あたりから母の手である蛇は母を離れ、穴に眠る。その間の母の手は、実は母の手ではない。それは母しか知らないのだ。

蛇が穴を出る仲春から初秋にかけてが、ほんとうの母の手なのだ。(蔭一郎)

帰省しても帰省しても兄がいる 蔭一郎

〜すごい このツイートでフォローしたくなりました  
(HAKUBIKI)

婚期を逃すダブル抹茶ティーラテ RYU\_sen

〜ダブル抹茶ティーラテはスタバの人気メニューで売切れ続出らしい。婚期を逃す(売れ残り)と引っ掛けたのか。

「婚期を逃す」という死語のような言葉を使ったのが面白かった。(月波与生)

百足とは云へど指紋は一つのみ しまねこくん

〜いつしゅん信じてしまいそうになるが、「そもそもムカデに指紋ある？」とワレにかえる。嘘を上手につく川柳の面白さ。(月波与生)